

こんにちは！ 室長の工藤です。

現在、私たちが青森県と北海道の間を移動する手段といえば、北海道新幹線とフェリー、そして飛行機が思い浮かぶでしょう。実は、もうひとつの手段があります。それは津軽海峡を「泳いで渡る」という方法です。

何バカな話を…と思う方もいらっしゃると思いますが、平成30年（2018）4月2日付『日本経済新聞』のコラム「時流地流」に「国内外の遠泳者が毎年、津軽半島の竜飛崎を拠点に海峡横断に挑んでいる」とあり、ただこのことは「地元でもあまり知られていない」ともいいます。もちろん、私も知りませんでした。遠泳監督の宇田 快^{うだやすし}さんと出会うまでは。

世界の海峡横断泳には成功が難しいとされる7つの海峡があり、それを「オーシャンズセブン」といいます。日本では唯一、津軽海峡がこれに選ばれています。しかも、流れが速く水温も低いので、最難関の海峡であるといえます。なるほど、藩政時代の絵図にも津軽海峡には南から竜飛潮・中潮・白神潮の3つの潮目が描かれ、しかも「此三潮東流事大急夜也」と記され海峡の難所であることが分かります。一方、難所だからこそ挑戦してみようと思うスイマーが世界中にいます。

この最難関の津軽海峡横断泳を世界で最初に成し遂げた女性は、青森市出身の尾迫千恵子^{おさこちえこ}（1951年生）さんです。国立音楽大学を卒業後、東京都国立市でピアノの先生をしていました。毎日のレッスンでどうしても肩が凝る…水泳との出会うきっかけは「肩こり対策」。そこで、さきに紹介した宇田さんに遠泳の手ほどきを受けました。

尾迫さんの最初の津軽海峡泳は、昭和62年（1987）8月11日に男女6人のリレーで12時間21分48秒のタイムで完泳しました。そして、平成6年8月6日、こんどはひとりで小泊村（現中泊町）権現崎から泳ぎはじめ、対岸の福島町松浦まで12時間28分で泳ぎ切りました。直線距離では約27kmですが、潮流の関係で遊泳距離はなんと40kmを超えたといえます。

これを報じた同年8月7日付の『北海道新聞』は「海で奏でたピアノソロ/女性初、津軽海峡を単独横断」の見出しでこの偉業を報じています。記事によれば、30分泳いでは「浮かびながら飲み物などを取って休憩するペース」で泳いだといえます。そして、「女性で初めてということは意識していましたが、うれしさよりやっと着いたというのが実感」とその感想を語っています。

尾迫さんは現在も指導者としてご活躍中のことです。



市民図書館を訪問した尾迫千恵子さん
（令和4年7月8日撮影）